

# 参考資料

- 市街地の成り立ち
- 計画策定までの取組
- 御室学区の現状と防災上の課題



## ■ 市街地の成り立ち

明治 25 年頃の地図を見ると、仁和寺や妙心寺、龍安寺の門前を中心に宅地などがみられますが、その他はほとんどが田畑であったことがうかがえます。

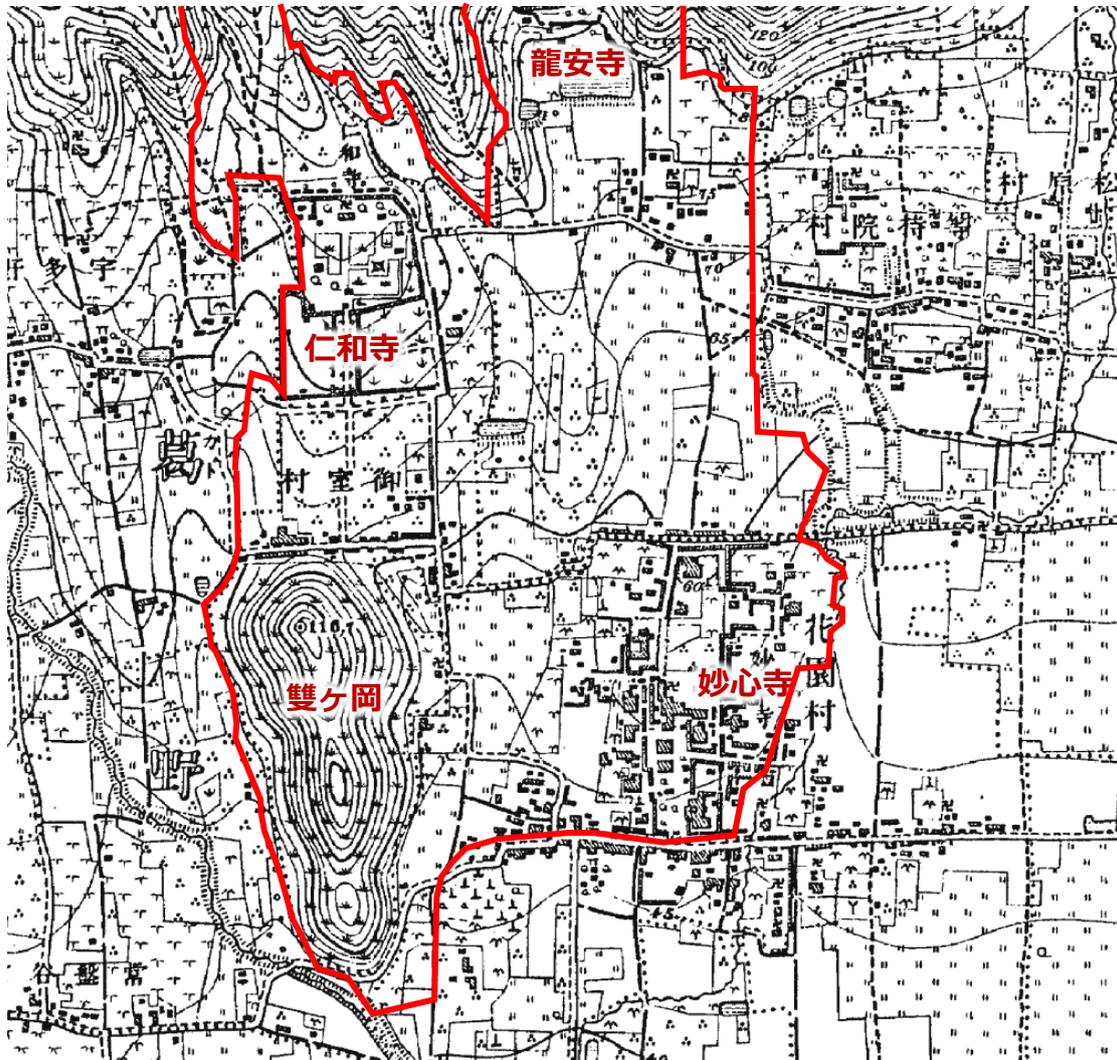


図 明治 25 年頃の御室学区  
(出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館)

大正 11 年頃までには、仁和寺の門前へと一条通が整備され、学区の南端には山陰本線が整備され、花園駅ができるなど、交通の利便性が向上しました。

それに伴い、一条通の沿道や、仁和寺や龍安寺、妙心寺から花園駅へとつづく道の沿道において市街化が進んでいきました。

大正 14 年頃には、京都電気鉄道北野線が開通しました。その後、龍安寺駅、妙心寺駅、御室仁和寺駅が整備されるとともに、戦前（昭和 28 年頃）の地図をしてみると、駅周辺を中心に、市街化が進んでいったことがうかがえます。

御室学区は、学区の交通の要所となる一条通や、仁和寺や龍安寺などの門前から駅に繋がる道の沿道を中心に市街地が形成され、それらの地域では幅の狭い路地や袋路などがつくられ、現在でも古い木造の建物が多く残されています。

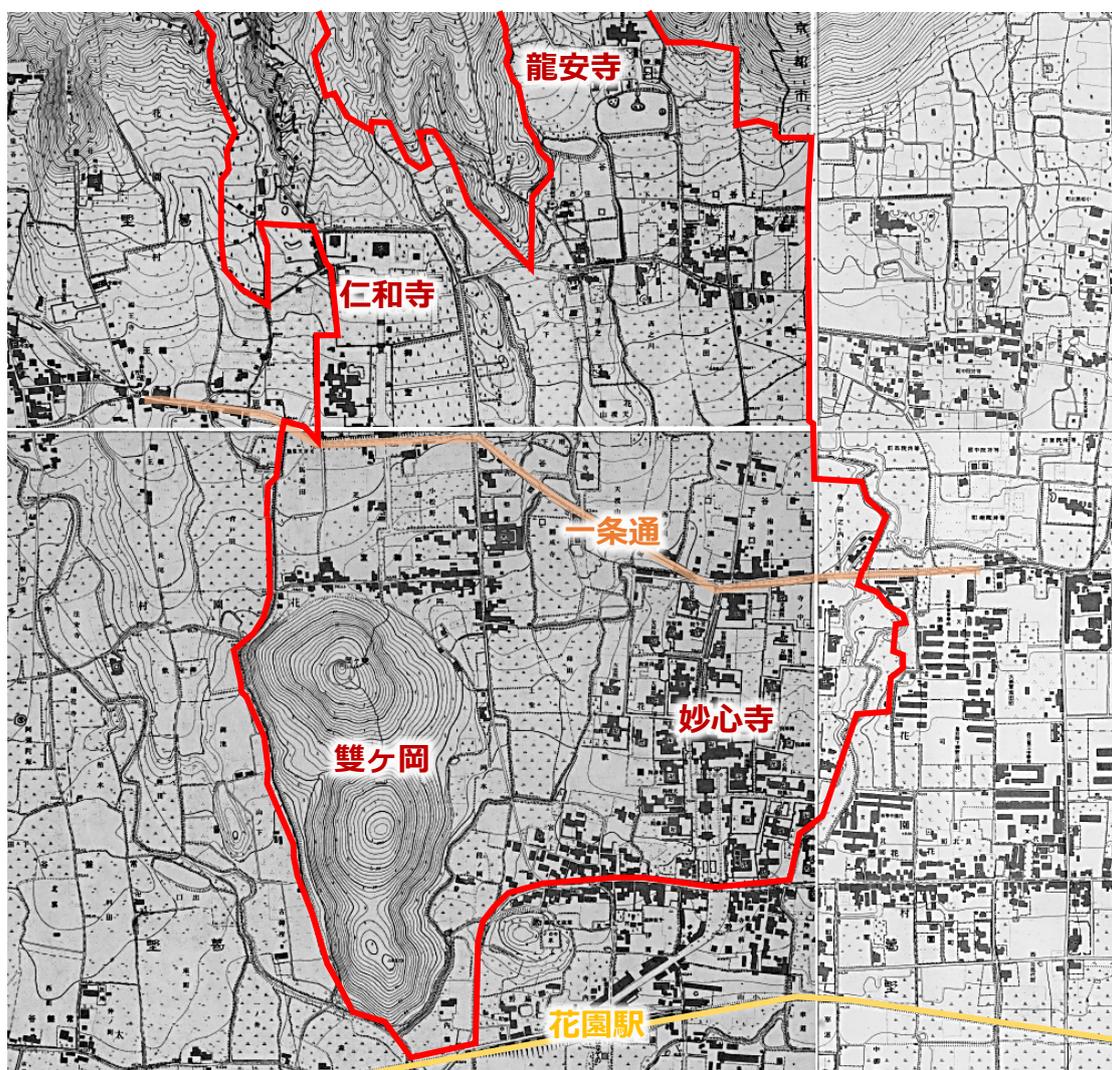


図 大正 11 年頃の御室学区

(出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館)

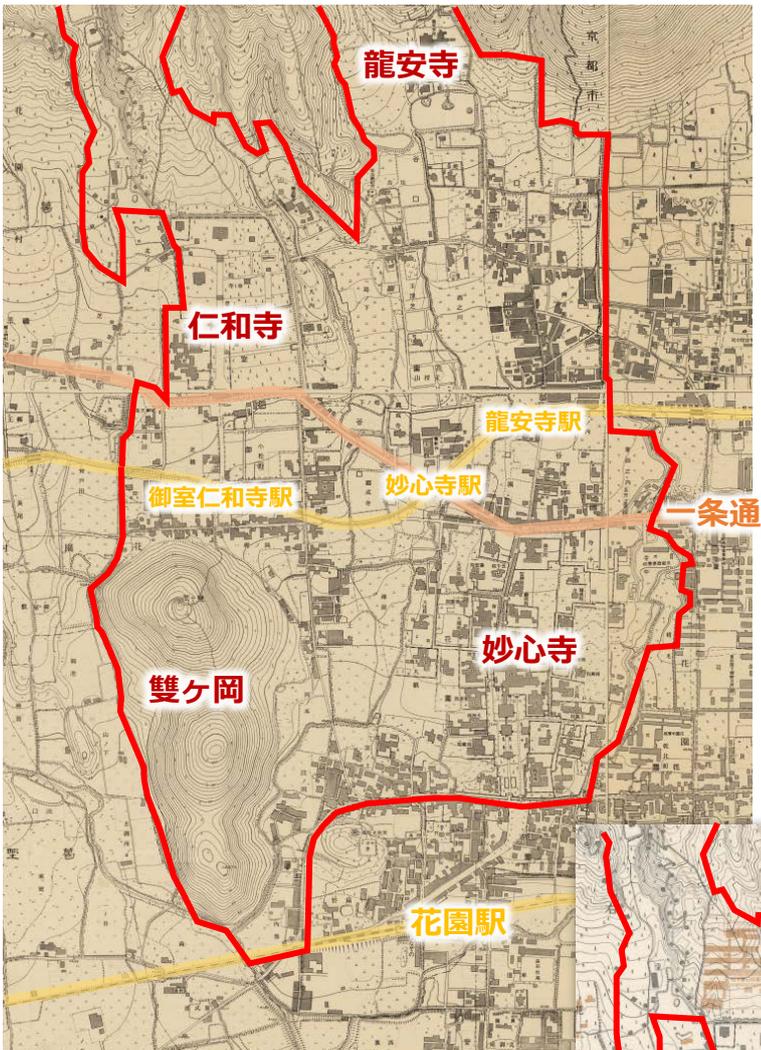


図 昭和4年頃の御室学区  
 (出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館)

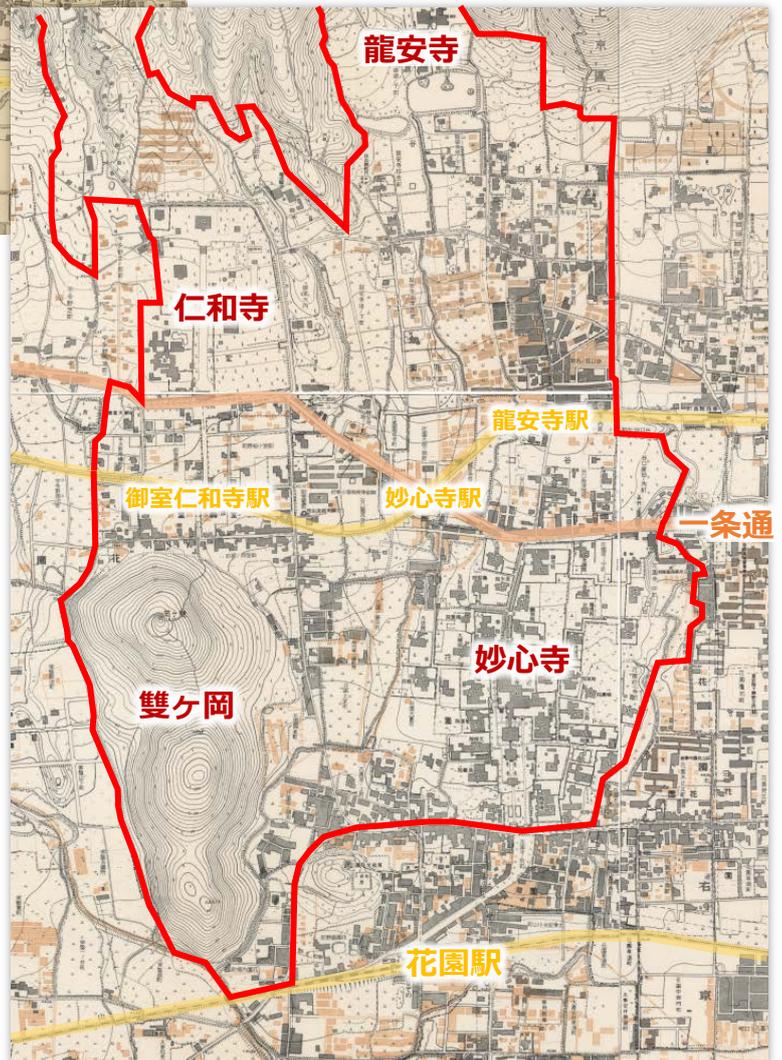
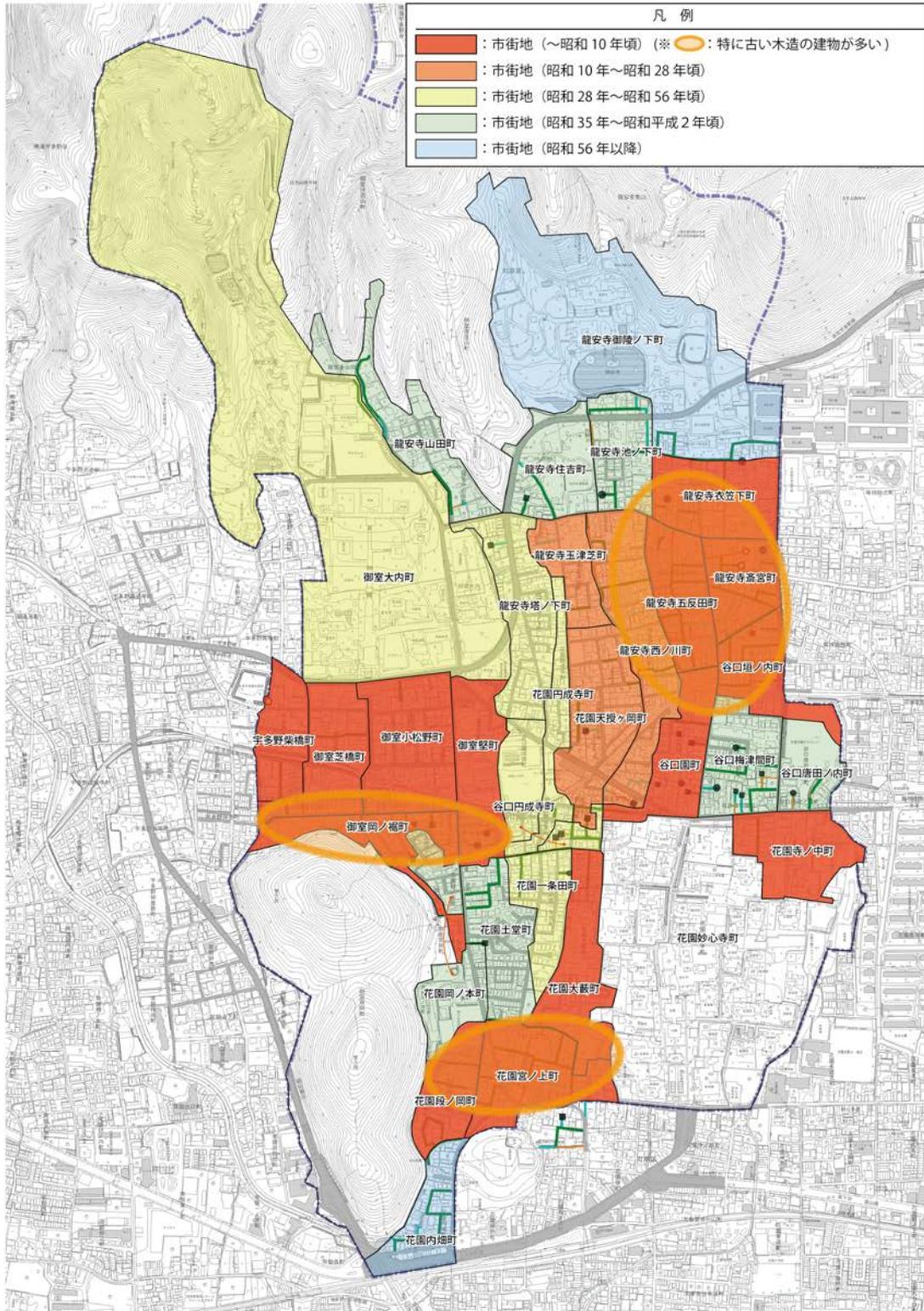


図 昭和28年頃の御室学区  
 (出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館)

## 【御室学区の町内ごとの市街地の形成時期】

御室学区の木造住宅の建築時期を基に市街地の形成時期をみると、各寺院の門前を中心に市街化が進み、現在の御室学区が形成されてきたことがうかがえます。



図：市街地の形成時期

## ■ 計画策定までの取組

これまで御室学区では、防災まちづくりの取組として、自主防災会を中心に住民のみなさんにご協力をいただきながら進めてきました。

平成 28 年度には「防災まちあるき」や「防災まちづくり意見交換会」を開催し、学区の現状や防災上の課題などについて住民のみなさんから想いやアイデアをいただきました。

### 平成 28 年度

#### 「防災まちあるき」の開催

平成 28 年 9 月 18 日開催の「防災まちあるき」には、全町内から延べ 63 名の方に参加をいただき、路地の幅員や建物の安全性、避難経路などの各町内の現状や身近な防災上の課題について確認しました。



#### 「防災まちづくり意見交換会」の開催

平成 28 年 11 月 7 日、11 月 11 日の 2 日間で開催した「防災まちづくり意見交換会」には、延べ 30 名の方に参加をいただきました。

「防災まちあるき」で確認したまちの現状や防災上の課題を振り返りながら、課題改善に向けた具体的な対策について意見交換を行い、たくさんのご意見をいただくことができました。



#### 主なご意見・アイデア

- ・火事の燃え広がりが心配。
- ・ブロック塀の耐震性に不安がある。
- ・地域の集合場所が周知されていない。
- ・防災意識が低い。
- ・家具の転倒防止を行う。
- ・耐震の支援制度などの周知を徹底する。
- ・情報共有のため、避難経路や地域の集合場所のマップをつくる。

#### 「防災まちづくり News」での情報発信

「防災まちづくり」の重要性について周知するとともに、「防災まちあるき」や「防災まちづくり意見交換会」の結果を共有するため、防災まちづくり News を発行し、全戸配布しました。



平成 28 年度の取組の中でいただいた想いやアイデアなどをふまえ、平成 29 年度から「すまいの耐震ローラー作戦」などの具体的な取組と、防災訓練で「防災まちづくり計画」の策定に向けた「啓発・意識調査」などを行ってきました。

## 平成 29 年度

### 「すまいの耐震ローラー作戦」の開催（詳細は P20～21）

平成 29 年 9 月 2 日に、御室 1 区内にある昭和 56 年以前に建てられた木造住宅を対象に、地域と行政、専門家が一緒にお宅を訪問し、建物の耐震改修の重要性、耐震改修に対する支援制度などを紹介する『すまいの耐震ローラー作戦』を行いました。

また、災害に対する備えや身近な防災上の不安や課題などに関するアンケートも実施しました。



### 防災訓練での「防災まちづくりコーナー」の設置（詳細は P22～23）

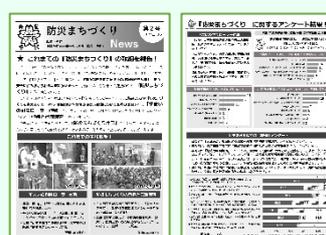
平成 29 年 10 月 29 日に、防災訓練の場で防災まちづくりコーナーを設置し、旗揚げ方式によるアンケートを実施しました。

災害に対する備えや、「地域の集合場所」の周知の状況、防災上の不安のある場所などに対するみなさんの意識について調査しました。



### 「防災まちづくり News」での情報発信

「防災まちづくり」の取組の周知と、「すまいの耐震ローラー作戦」や「啓発・意識調査」について結果報告を行いました。



## 平成 30 年度

### 「防災まちづくりに関するアンケート調査」の実施（詳細は P26～29）

平成 30 年 6 月 21 日から 7 月 20 日にかけてアンケート調査を実施し、全ての町内会から計 2,044 人（町内会加入世帯の 76.9%）の方から回答をいただくことができました。

### 「すまいの耐震ローラー作戦」の開催（詳細は P20～21）

平成 30 年 10 月 6 日に、御室 2 区内にある昭和 56 年以前に建てられた木造住宅を対象に、地域と行政、専門家が一緒にお宅を訪問し、建物の耐震改修の重要性、耐震改修に対する支援制度などを紹介する『すまいの耐震ローラー作戦』を行いました。



### 防災訓練での「防災まちづくりコーナー」の設置（詳細は P24～25）

平成 30 年 10 月 28 日に、防災訓練の場で防災まちづくりコーナーを設置し、旗揚げ方式によるアンケートを実施しました。

自宅の耐震改修や危険なブロック塀の改善を進めるなど、御室学区として、特に進めていくべきだと思う取組について調査しました。



### 「防災まちづくり News」での情報発信

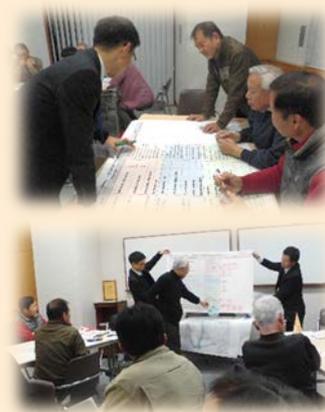
「防災まちづくり」の取組の周知と、アンケート調査や「すまいの耐震ローラー作戦」、防災訓練での「啓発・意識調査」について結果報告を行いました。



### 防災まちづくり意見交換会（本部役員会）の開催

平成 31 年 1 月 15 日に開催した「防災まちづくり意見交換会」には、自主防災会の本部役員延べ 12 名の方に参加を頂きました。

「防災まちづくり計画」の構成や計画に基づく取組などについて確認し、目指すまちの姿や学区内の重要な道、具体的な取組と進め方について意見交換を行い、たくさんのご意見をいただくことができました。



## 【取組の詳細】

### ★「すまいの耐震ローラー作戦」

#### 1. 主旨・目的

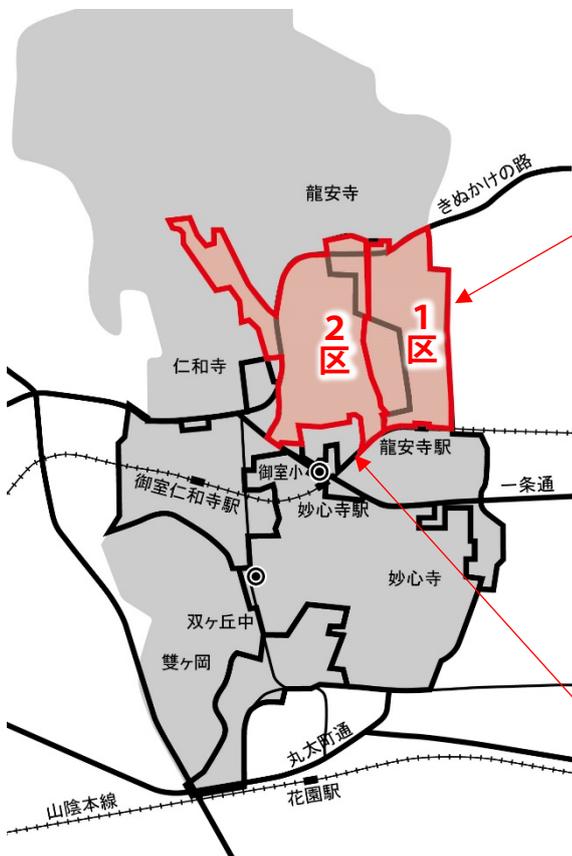
- ◆地震時に自身の命を守るとともに、建物の倒壊による避難経路の閉塞を防止する災害に強い「いえ」づくりを進めるため、建物の耐震診断、耐震改修の重要性について意識啓発を行い、耐震診断、耐震改修に関する市の支援制度を紹介すること。
- ◆御室学区が取り組んでいる「防災まちづくり」の活動を周知するとともに、安心・安全に住み続けられる災害に強いまちの実現に向けた意識啓発を行うこと。

#### 2. 実施概要

- ◆御室1区（平成29年度実施）、2区（平成30年度実施）内にある昭和56年以前に建てられた木造住宅を対象に実施しました。
- ◆普段から取り組んでいる防災対策、身近な防災上の課題などについて簡単なアンケートを実施しました。（平成29年度）
- ◆各班の対象建物（外観目視で判断）を戸別訪問し、お住まいの住宅の建築時期や耐震改修のニーズなどについてヒアリングを行いながら、耐震啓発、行政の支援制度のパンフレットなどを配布し、無料診断などの周知を行いました。（平成30年度）



#### 対象地区 略図



#### 御室1区 訪問軒数

##### ・全体 | 226軒（60軒は対面で説明）

・衣笠御陵下	6軒（2軒は対面）
・衣笠下町	24軒（7軒は対面）
・北齊ノ宮町	15軒（7軒は対面）
・中齊ノ宮町	17軒（2軒は対面）
・南齊ノ宮町	23軒（0軒は対面）
・北五反田町	6軒（2軒は対面）
・上五反田町	21軒（8軒は対面）
・中五反田町	8軒（0軒は対面）
・龍中部	16軒（3軒は対面）
・龍南部	18軒（3軒は対面）
・垣ノ内町1	25軒（12軒は対面）
・垣ノ内町2	8軒（5軒は対面）
・垣園町	20軒（1軒は対面）
・園垣町	19軒（8軒は対面）

#### 御室2区 訪問軒数

##### ・全体 | 198軒（70軒は対面で説明）

・池ノ下北部	10軒（4軒は対面）
・池ノ下南部	22軒（1軒は対面）
・上西ノ川町	32軒（13軒は対面）
・西ノ川中部	11軒（3軒は対面）
・中西ノ川町	13軒（10軒は対面）
・円成寺・天授ヶ岡	6軒（4軒は対面）
・塔ノ下町南	54軒（21軒は対面）
・住吉・玉津芝	26軒（14軒は対面）
・山田町	24軒（0軒は対面）

## 平成 29 年度

### Q1 ご自宅で、日頃から災害に備えて対策をしていることはありますか？



- ・火災報知機や消火器、バケツなどの設置、家具の転倒防止に取り組んでいる人が多いです。
- ・耐震改修を実施している人は、まだまだ少ないです。

### Q2 地震が起きたとき、不安に感じることはなんですか？



- ・地震が起きた際に、自宅の倒壊や家具の転倒、大規模な延焼火災、高齢者などの救助を不安に思う人が多いです。
- ・不安はない人が1割います。
- ・自宅の倒壊や家具の転倒を不安に感じても（50%）、耐震改修を実施している人は6%にとどまっています。

### Q3 防災に関して、ご町内で普段から気になっていること、不安に思うことはありますか？



- ・古い建物が密集していることや、狭い道が多いこと、高齢者などの避難について不安に思う人が多いです。
- ・広い道が少なく、普段から家の前の道に物を置かないように心がけているため、不安に思う人は少なくなっています。

### 住民のみなさんのご意見

- ・寝る場所の近くには家具を置かない。
- ・若い人には、避難の際に手助けをしてほしいが、町内に若い人が少ない。
- ・町内で地域の集合場所を確認した覚えはあるが、どこか忘れてしまう。 など

## 平成 30 年度



### 住民のみなさんのご意見

- ・工事費用の負担が問題
- ・支援制度があることを知らなかった
- ・工務店の方から支援制度について聞いた
- ・建替え時に、耐震診断や耐震補強をしている
- ・自分の命を守ることなので、前向きに検討したい
- ・借家なので、自分では決められない

など

# ★防災訓練での「防災まちづくりコーナー」

平成 29 年度

## 1. 主旨・目的

- ◆住民のみなさんのご意見を反映した『防災まちづくり計画』の作成に向け、学区全体の課題・方針に共通する「コミュニティ」に関する意見や考えを聞く。
- ◆防災まちづくりに関する「旗揚げ方式によるアンケート」などを通して、住民一人ひとり、各町内が『防災まちづくり』を進めていくための意識啓発を図る。



## 2. 実施概要

- ◆地震や火災などの災害に対する不安や災害に対する備えの実施状況、「地域の集合場所」の周知などについて、「旗揚げ方式によるアンケート」で意識調査。

▶会場	御室小学校体育館（防災まちづくりコーナー設置）	
▶回答者数	全体で約 <b>173</b> 名（1班：47名、2班：60名、3班：66名）	
班分け	対象町内	
1班 (1区・2区A)	衣笠御陵下、衣笠下町、北斉ノ宮町、中斉ノ宮町、南斉ノ宮町、北五反田町、上五反田町、垣ノ内町1、垣ノ内町2、垣園町、園垣町、中五反田町、龍中部、龍南部、上西ノ川町、池ノ下北部、池ノ下南部、西ノ川中部、中西ノ川町	
2班 (2区B・3区)	山田町、塔ノ下町北、塔ノ下町南、住吉・玉津芝、円成寺・天授ヶ岡、梅園1、梅園2、梅津間町、谷口東町、寺ノ中町、妙心寺町、谷口仲町、三和町、天授ヶ岡東、天授ヶ岡西、花園大藪町、谷口西町、円成寺町	
3班 (4区・5区)	御室北部、御室小松野、御室山門前、御室西町、御室南部、岡ノ本町、御室仲町、双ヶ岡東、一条田町、和のまち、土堂町、大藪町南、宮ノ上町東、宮ノ上町西、段ノ岡町、北内畑町	



回答者全体、各班で結果を集計！

## 3. 「旗揚げアンケート」結果

Q1 あなたは、地震による建物の倒壊や大規模な延焼火災などの災害に対して、不安を感じていますか？

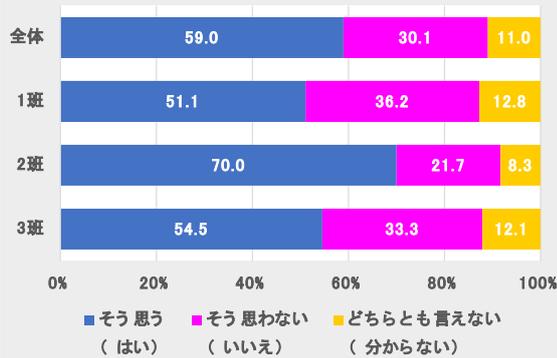


9割以上の回答者が地震や火災などの災害に対して不安を感じています。



Q2

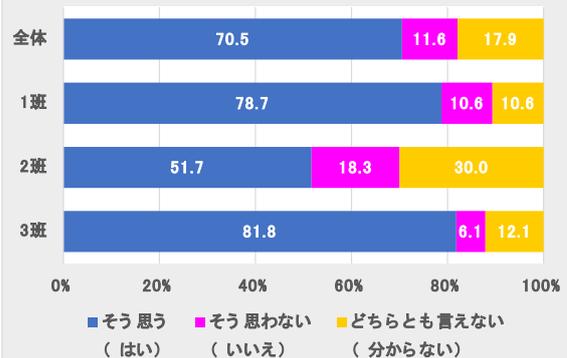
あなたのご家庭では、「災害が起きたら、どこに集まるか」など災害に対する備えをご家庭で話し合っていますか？



全体で約6割が、災害に対する備えについて家族で話し合っています！

Q3

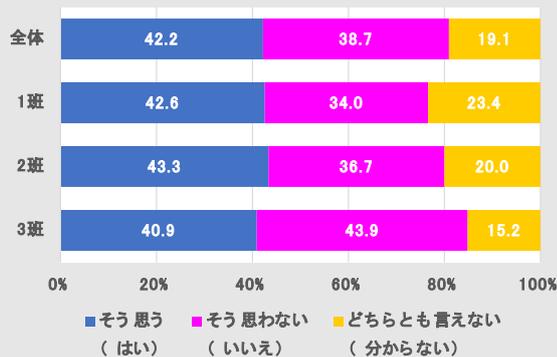
あなたのご町内では、「地域の集合場所」がどこかを周知されていますか？



全体で7割が、町内で「地域の集合場所」が周知されていると回答していますが、周知がなされていない町内も見受けられます！

Q4

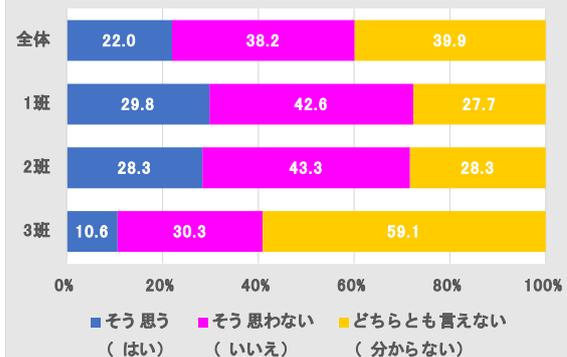
あなたのご自宅から「地域の集合場所」に至る経路に、老朽化したブロック塀や袋路など、防災上の不安のある場所はありませんか？



約4割が「地域の集合場所」までの経路に防災上不安な場所があると回答しており、避難の際の支障とならないよう対策が必要です！

Q5

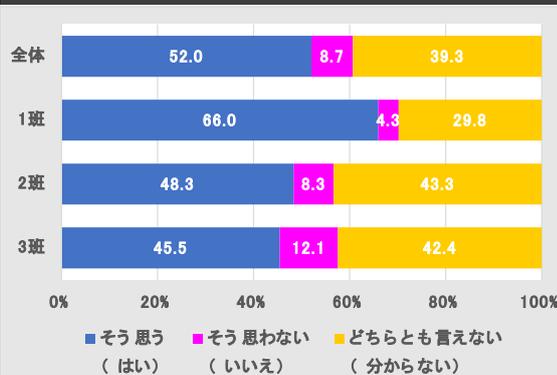
あなたのご町内では、災害時の避難に支援が必要な方の情報を把握するなど、災害時の備えについて、取り組んでいますか？



全体で2割程度しか取り組んでおらず、災害時の避難の支援の仕組みを検討するなどの対策が必要です！

Q6

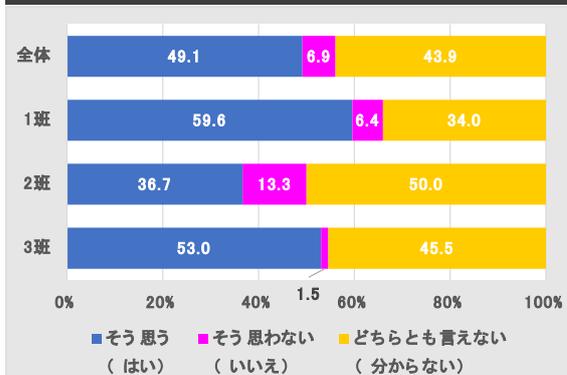
あなたは、京都市の様々な制度や助成メニューを使ってみたいと思いますか？



全体では約半数が、支援制度などに関心があり、特に1班のような古い木造の建物が密集する町内での関心が高いです！

Q7

あなたは、御室学区で防災まちづくりに関するセミナーや意見交換会などの場があれば、参加してみたいと思いますか？



全体では約半数が参加してみたいと感じており、特に防災上の不安がある町内などでは、セミナーなどへの関心の高さがうかがえます！

## 1. 主旨・目的

- ◆住民のみなさんのご意見を反映した『防災まちづくり計画』の作成に向け、御室学区として、特に進めていくべきだと思う取組について意見を聞くとともに、防災まちづくりに関する意識啓発を図る。



## 2. 実施概要

- ◆自宅の耐震改修や危険なブロック塀の改善を進めるなど、御室学区としてこれから特に進めていくべき取組について「旗揚げ方式によるアンケート」で意識調査。

▶会 場 | 御室小学校体育館（防災まちづくりコーナー設置）

▶回答者数 | 全体で約 **222** 名（1班：43名、2班：69名、3班：110名）

班分け	対象町内
1班 (1区・2区A)	衣笠御陵下、衣笠下町、北斉ノ宮町、中斉ノ宮町、南斉ノ宮町、北五反田町、上五反田町、垣ノ内町1、垣ノ内町2、垣園町、園垣町、中五反田町、龍中部、龍南部、上西ノ川町、池ノ下北部、池ノ下南部、西ノ川中部、中西ノ川町
2班 (2区B・3区)	山田町、塔ノ下町南、住吉・玉津芝、円成寺・天授ヶ岡、梅園1、梅園2、梅津間町、谷口東町、寺ノ中町、妙心寺町、谷口仲町、三和町、天授ヶ岡東、天授ヶ岡西、花園大藪町、谷口西町、円成寺町
3班 (4区・5区)	御室北部、御室小松野、御室山門前、御室西町、御室南部、岡ノ本町、御室仲町、双ヶ岡東、一条田町、和のまち、土堂町、大藪町南、宮ノ上町東、宮ノ上町西、段ノ岡町、北内畑町



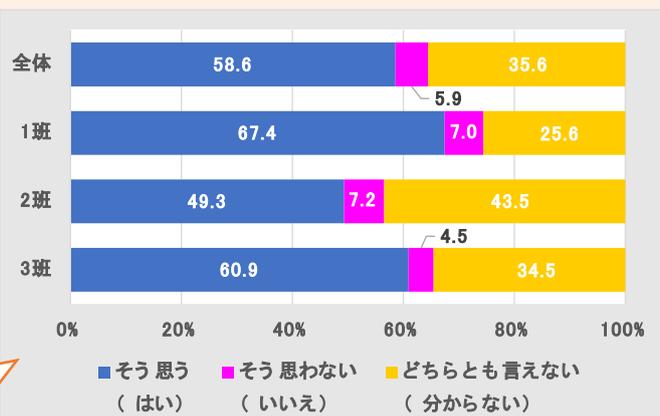
回答者全体、各班で結果を集計！

## 3. 「旗揚げアンケート」結果

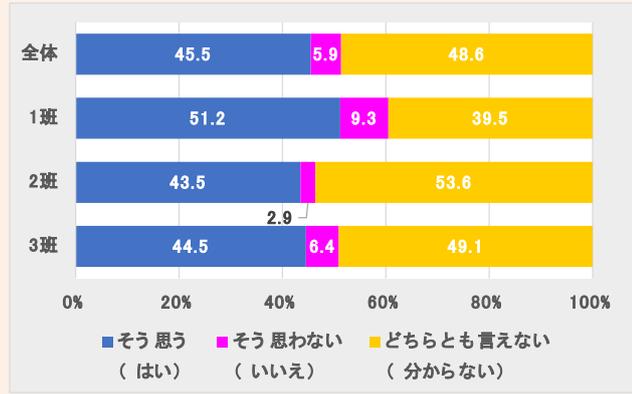
Q1 建物の耐震改修の重要性を理解してもらうため、1軒1軒を回って説明する。



- 全体の約6割の方が、建物の耐震改修の重要性の意識啓発の取組が必要であると感じている。
- 古い木造の建物が密集している地域がある1班で必要と感じている方が多い。

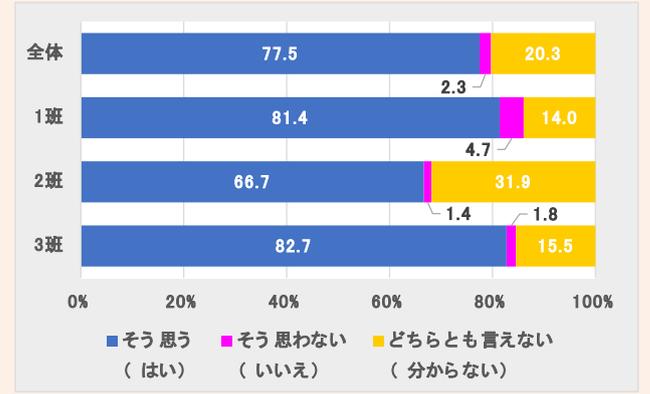


**Q2** 自宅の耐震改修など、すぐにでもできる家の改善を進める



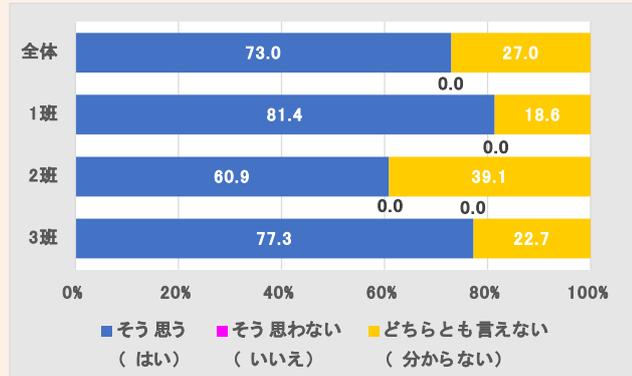
- 全体の5割弱の方が、すぐにでもできる家の改善を進める必要があると感じている。
- 班別では、古い木造の建物が密集している地域がある1班で必要と感じている方が多い。

**Q3** 町内会単位などで実際に街を歩いて、身の回りの危険な箇所などを確認・点検する



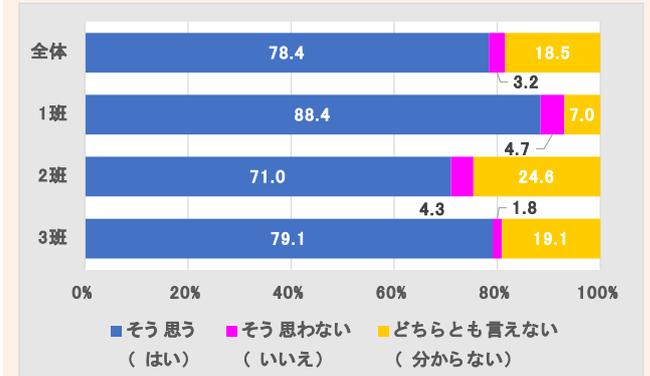
- 全体の8割弱の方が、身の回りの危険な箇所などを確認・点検する必要があると感じている。
- 班別では、2班で必要と感じている方が少ない傾向がみられる。

**Q4** 危険なブロック塀の改善や袋路の緊急避難扉の設置、路地の拡幅整備など、すぐにできる改善を進める



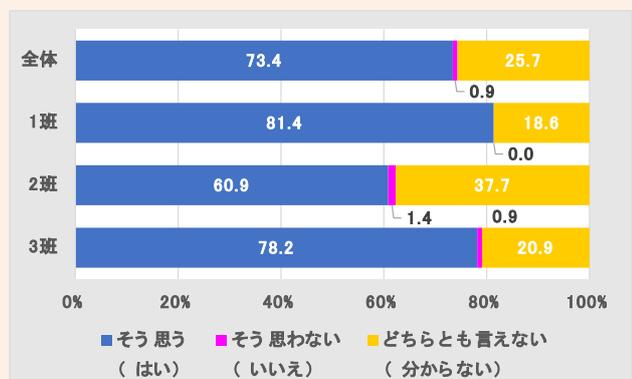
- 全体の7割強の方が、すぐにでもできる改善を進める必要があると感じている。
- 班別では、2班で必要と感じている方が少ない傾向がみられる。

**Q5** 災害時の地域の集合場所を安全な場所に見直したり、場所を表示する看板を設置する



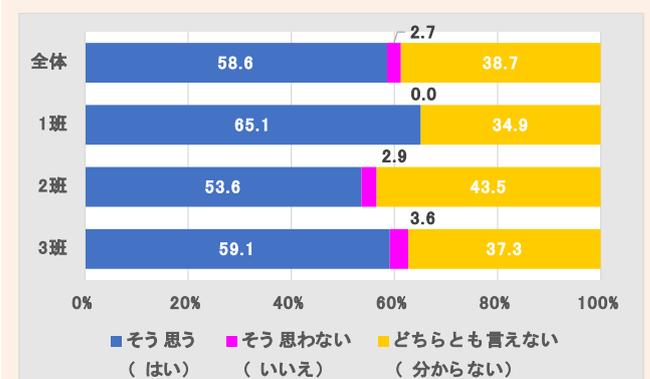
- 全体の8割弱の方が、地域の集合場所の見直しや看板を設置する必要があると感じている。
- 班別では、2班で必要と感じている方が少ない傾向がみられる。

**Q6** 防災訓練などの場を利用し、住民への周知・啓発活動や勉強会などを行う



- 全体の7割強の方が、周知・啓発活動や勉強会を行う必要があると感じている。
- 班別では、2班で必要と感じている方が少ない傾向がみられる。

**Q7** 今回の企画に参加して、身近にできる防災まちづくりに取組んでみようと思われましたか



- 今回の取組を通して、全体の6割弱の方が、身近にできる防災まちづくりに取組んでみようと思ったと回答している。

## ★『防災まちづくり』に関するアンケート調査

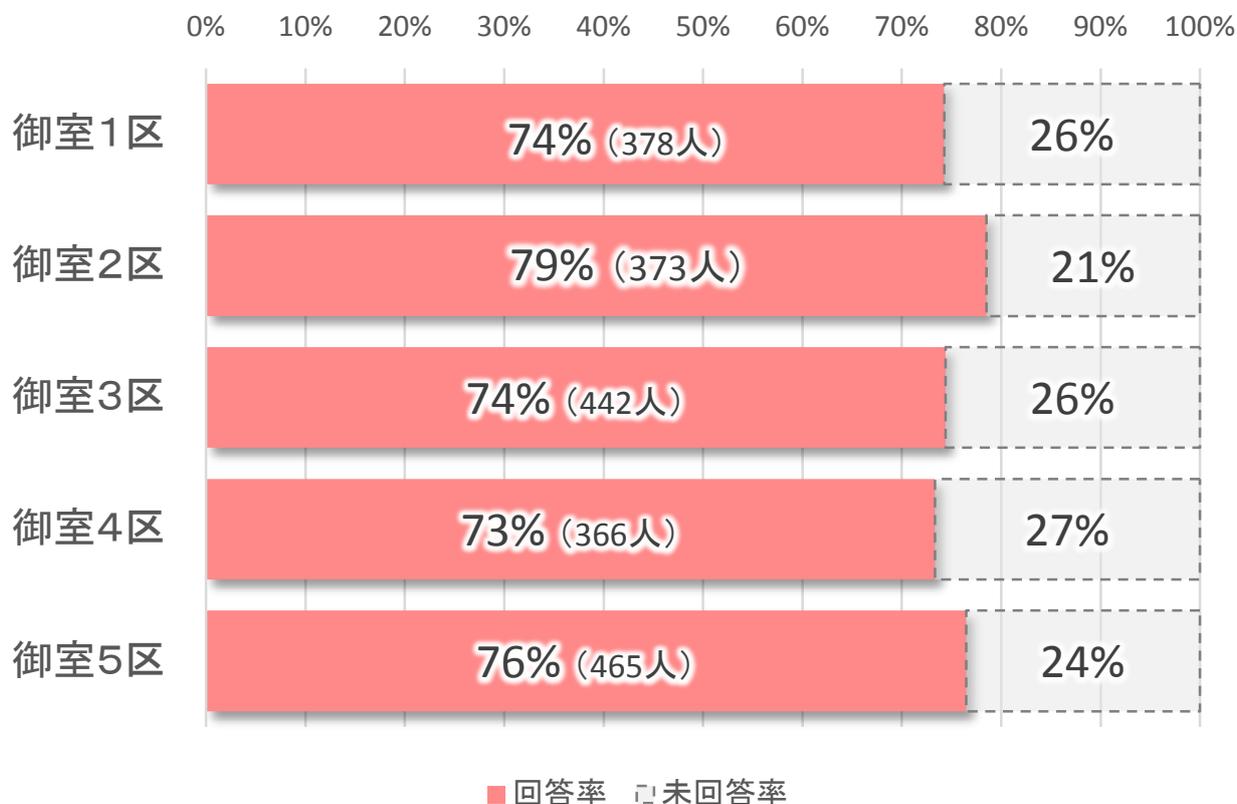
### 1. アンケート調査概要

平成30年6月21日から7月20日にかけて実施しました「御室学区の『防災まちづくり』に関するアンケート調査」におきましては、みなさまに多大なるご協力をいただき、**全52町内会から多くの回答をいただくことができました。**

- 期 間：平成30年6月21日（木）～7月20日（金）
- 配布・回収：町内会を通じた直接配布・回収
- 配布数：町内会加入世帯：2,685通
- 回収数：2,063通（回収率：76.9%）
- 有効回答数：2,044通（有効回答率：76.2%）

### 2. 各区の回答状況

・各区とも**7～8割の方**から回答をいただきました。

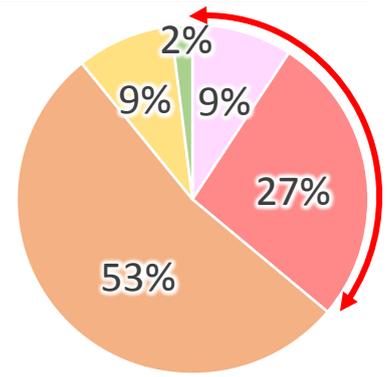


### 3. 結果概要

#### 住宅の建築された時期

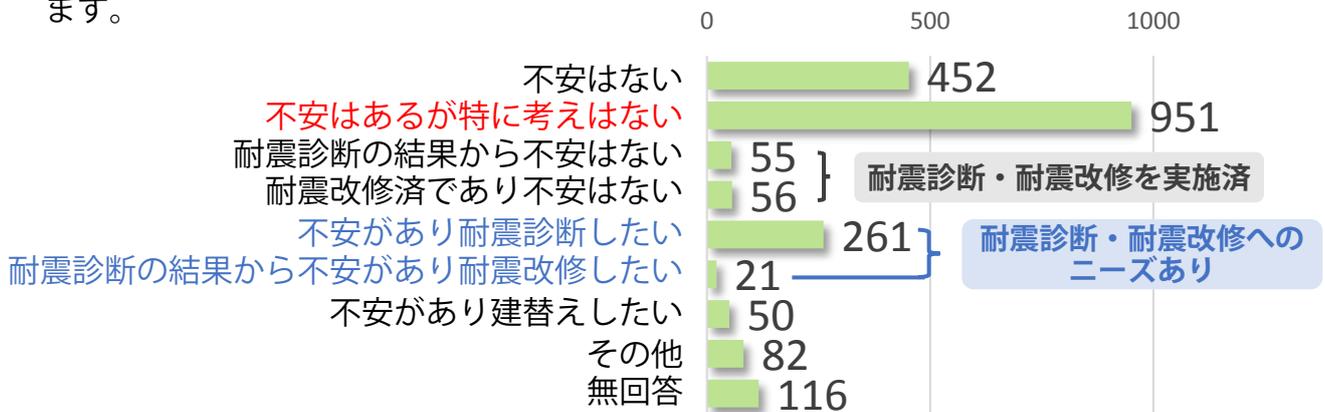
- 旧耐震基準となる昭和 56 年以前に建築された住宅が全体の約 4 割を占めています。

- 昭和 25 年より古い
- 昭和 25 年～55 年の間
- 昭和 56 年以降
- 分からない
- 無回答



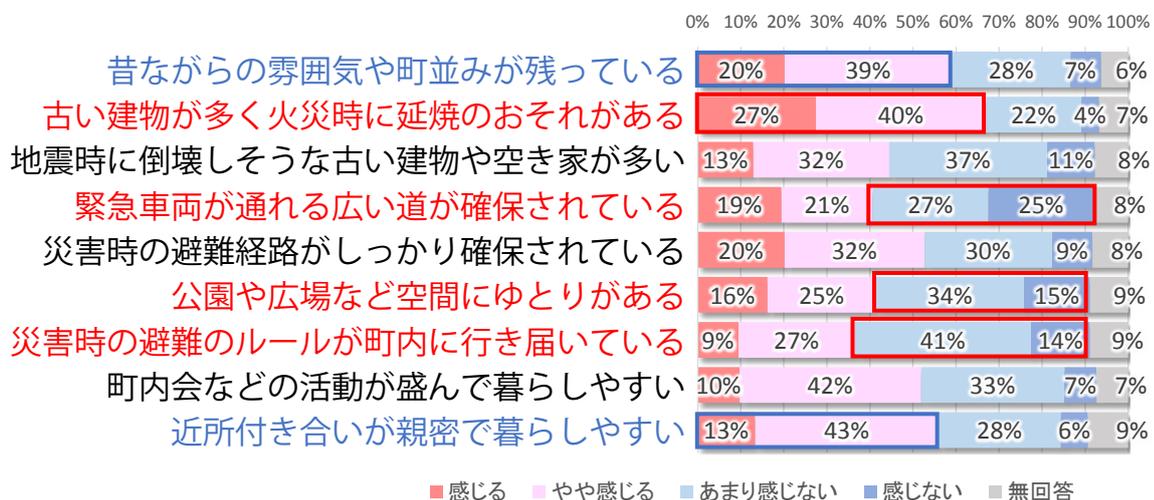
#### 地震に対する不安

- 全体の約 15% (282 人) の方が耐震診断や耐震改修へのニーズがあり、また、実際に耐震診断や耐震改修を実施 (111 人) している方もみられます。
- 一方で、全体の約半数の方が不安はあるものの特に対策を考えてはいないと回答しています。



#### お住まいのご町内について感じる事

- 全体では、5～6割の方が「昔ながらの雰囲気や町並みが残っている」、「近所付き合いが親密で暮らしやすい」などと感じています。
- 一方で、「古い建物が多く、火災時に延焼のおそれがある」、「緊急車両が通れる広い道が確保されていない」、「公園や広場など空間にゆとりがない」、「災害時の避難のルールが町内に行き届いていない」と感じている方も半数近くいます。



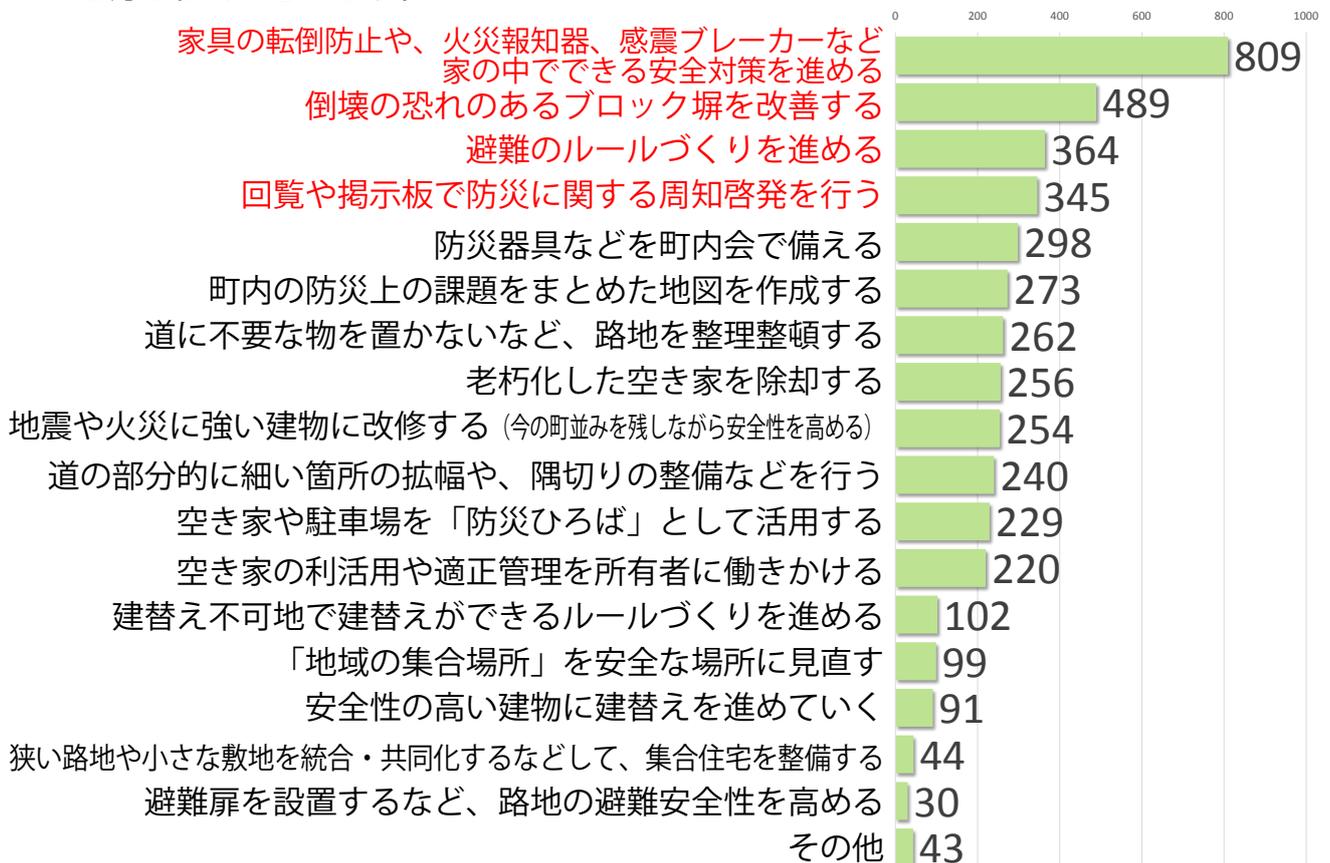
## お住まいのご町内の防災上の課題

- 全体では、「高齢者や足の不自由な方の増加」や「幅の狭い道が多い」などを、特に防災上の課題と感じている方が多くみられます。



## お住まいのご町内の防災上の課題の解決のために必要なこと

- 特に「家具の転倒防止や火災報知器、感震ブレーカーの設置などの家の中でできる安全対策の実施」が必要であると感じている方が多くみられます。
- 防災上の課題として挙げられた「高齢者や足の不自由な方の避難」や「幅の狭い道が多い」を解決するために、「倒壊の恐れのあるブロック塀を改善する」や「避難のルールづくりを進める」、「回覧や掲示板で防災に関する周知啓発を行う」など、みんなが安全に避難できる道の確保や避難のルールづくり、情報共有などが、特に必要であると感じている方が多くみられます。

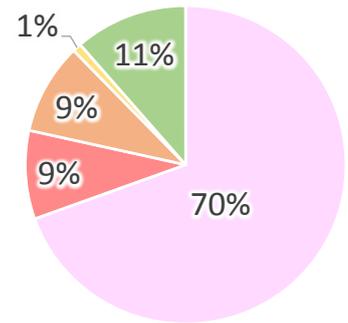


## 防災まちづくりへの関わり方

- ・一人ひとりの関わり方として、「日常的に防災意識をもち、自宅や身の回りの防災対策を行う」ことが大切と考えています。
- ・町内会の関わり方として、「町内の危険箇所などを定期的に点検・確認し、学区に伝える」ことが大切であると考えています。
- ・一人ひとりだけでなく、町内会や学区とも連携して取組を進めていく必要があります。

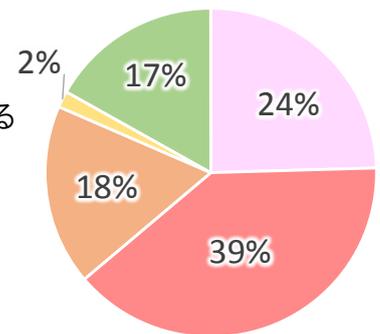
### 一人ひとりの関わり方

- 日常的に防災意識をもち、自宅や身の回りの防災対策を行う
- 「防災まちづくり」の取組に積極的に参加・協力する
- 「防災まちづくり」の取組への参加などを身近な住民の方に声掛けをする
- その他
- 無回答



### 町内会の関わり方

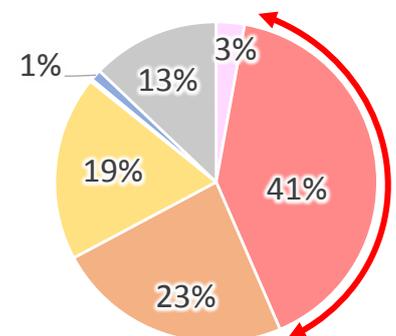
- 町内の住民の方に「防災まちづくり」の取組への参加・協力を呼びかける
- 町内の危険箇所などを定期的に点検・確認し、学区に伝える
- 町内の住民の方の想いやニーズを把握し、学区に伝える
- その他
- 無回答



## 御室学区の将来像

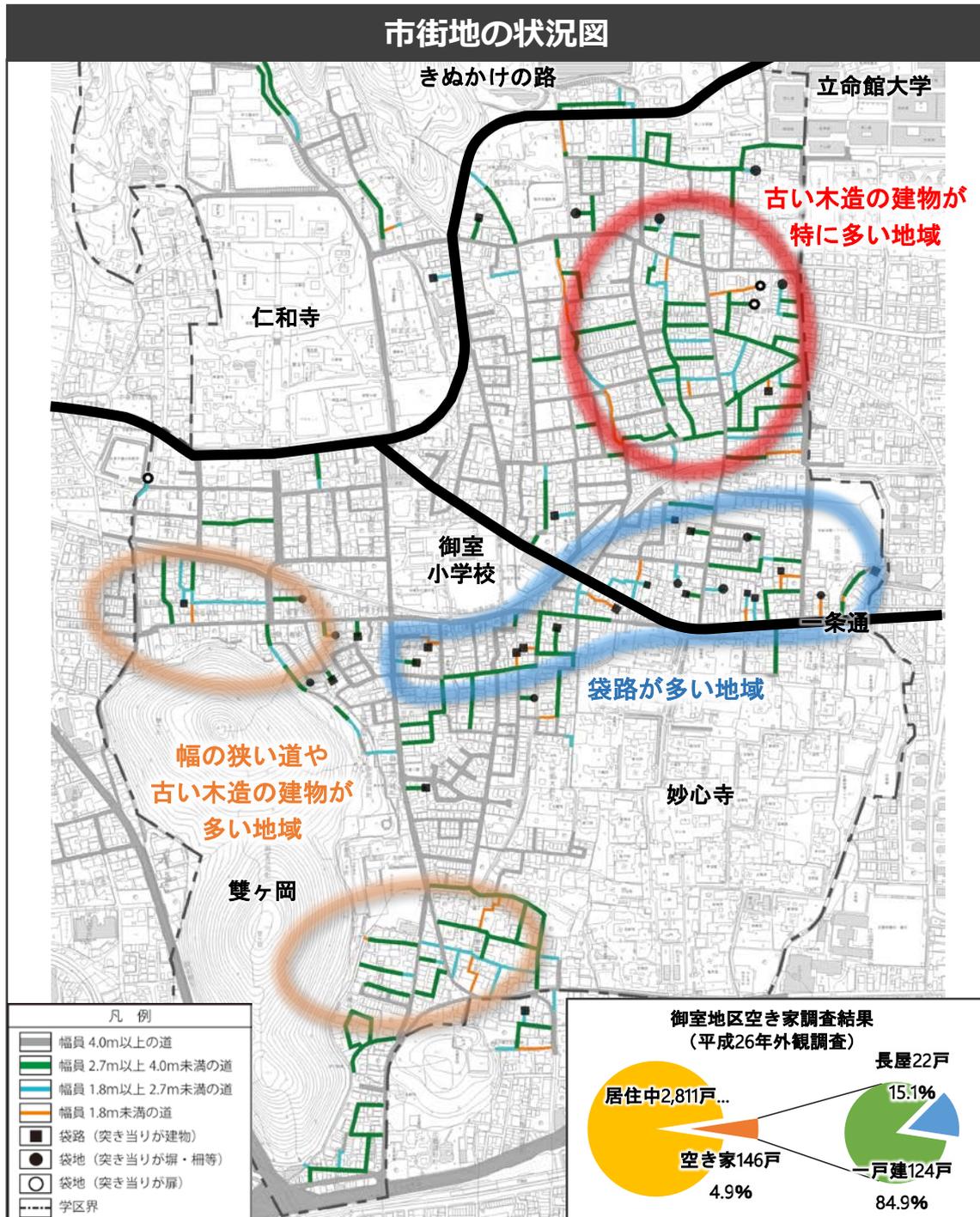
- ・「現状のままでよい」と考えている方は全体の3%と少なく、約4割の方が「現在の道幅や町並みを活かしながら、まちの安全性が高まっていくまち」になると良いと考えています。

- 現状のままでよい
- 現在の道幅や町並みを活かしながら、まちの安全性が高まっていくまち
- 建物の建替えなどに合わせて、少しずつ道幅が広がっていくまち
- 幅員の広い道や公園などがしっかり整備されたまち
- 狭い敷地などが統合され、マンションなどが建ち並ぶまち
- その他
- 無回答



## ■ 御室学区の現状と防災上の課題

平成 28～29 年度に実施した「防災まちあるき」や「防災まちづくり意見交換会」、「防災訓練での意識調査」などで、多くのご意見をいただき、御室学区の各地域の市街地の状況が把握できました。



### 防災に関する意識調査結果

- ・約 6 割の方が、災害時の備えについて家族で話し合っています。
- ・約 7 割の方が、各町内で「地域の集会所」が周知されていると感じています。
- ・約 4 割の方が、「地域の集会所」までの経路に、防災上不安な場所があると感じています。
- ・約 2 割の方が、各町内で災害時に避難の支援が必要な人の情報把握などの、災害時の備えに取り組んでいます。

## 古い木造の建物が特に多い地域

### 現状

- ・市街化された時期が古く、良い雰囲気町の町並みが残っています。
- ・長屋や借家、古い木造の建物が特に多く、耐震改修済の建物は少ない状況にあります。
- ・道の多くは2項道路で、現状で空き家は少ないですが、敷地の狭い宅地が多く、所々に袋路がみられ、建替えが困難な状況にあります。
- ・空き地や平面駐車場などの空地が少ないです。



### 防災上の課題

- 古い木造の建物は地震時に倒壊し、避難経路を塞ぐとともに、建物が密集し、空地が少ないため、延焼火災が懸念されます。
- 建物の自律更新が難しいため、建物の老朽化や空き家の増加が予想されます。
- 袋路では、災害時の建物やブロック塀の倒壊などにより避難経路が塞がれ、避難が困難となる恐れがあります。
- 災害時の一時的な避難や延焼防止として活用できる空間がないことが懸念されます。

## 袋路が多い地域

### 現状

- ・空き家はそれほど多くありませんが、現状で建替えが困難な路地が多いです。
- ・袋路が多く、路地奥が駐車場などに繋がっている袋路もありますが、多くは路地奥が建て詰まっており、袋路の入口部分に古いブロック塀のある路地もみられます。
- ・車や自転車、植木などが置かれている狭い路地もみられます。
- ・公園や広場はあまりありませんが、学校や公園、お寺が隣接しています。



### 防災上の課題

- 建物の自律更新が難しいため、建物の老朽化や空き家の増加が予想されます。
- 袋路では、災害時の建物やブロック塀の倒壊などにより避難経路が塞がれ、避難が困難となる恐れがあります。
- 路地に置かれている車や自転車などは、災害時の避難の支障となる恐れがあります。
- 隣接する学校や公園、お寺などとの災害時の避難などに関する協力体制がなければ、一時的な避難場所などとしての活用ができない恐れがあります。

## 幅の狭い道や古い木造の建物が多い地域

### 現状

- ・市街化された時期が古く、古い木造の建物が多くあります。
- ・建替えに合わせて幅員が広がっている道もありますが、未舗装の道などがみられます。
- ・古くて背の高いブロック塀がある路地もみられます。
- ・駐車場が点在していますが、公園などの広場空間は少ないです。



### 防災上の課題

- 古い木造の建物は地震時に倒壊して避難経路を塞ぐ恐れがあるとともに、建物の自律更新が難しいため、建物の老朽化や空き家の増加が予想されます。
- 災害時のブロック塀の倒壊などにより、避難が困難となる恐れがあります。
- 災害時の一時的な避難や延焼防止として活用できる空間がないことが懸念されます。

## その他学区全体に共通する現状や課題

### 現状

- ・空き家が増加し、管理が不十分なものもみられます。
- ・防災に関して意識していない人も見受けられます。
- ・地域の集合場所の周知が不十分です。
- ・高齢化が進展しており、一人暮らしの高齢者が増えています。
- ・小学校や大学、公園などの敷地の広い空間が多いです。
- ・地域の集合場所の安全性に不安があるところがあります。



### 防災上の課題

- 空き家が適正に管理されず、倒壊や瓦の落下、庭木が道にはみ出すなど、周囲に悪影響を及ぼす恐れがあります。
- 一人ひとりが防災意識を高めなければ、防災対策が効果的に進みません。
- 地域の集合場所の安全性の確認や周知、高齢者の避難などの方法の検討などをおこななければ、災害時の迅速な対応ができない恐れがあります。

御室学区 防災まちづくり計画

---

発行：御室自主防災会 平成31年3月